第 2014-19 号

恵みと真理のニュース

2014 年 5 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

偶像崇拝の罪から救い出し
治療の奇跡を与えてくださった神様に感謝を捧げます。

親は私が幼い頃から熱心に偶像崇拝しました。家に何か問題が出来ると母はすぐ巫女を招いて偶像に夜通して祈る儀式を行ないました。
そのような母によって私もよく隣の家で祈る気式を見物したりしました。その儀式が恐くても不思議でした。そのような環境で育ちながら自然に私も占いすることが好きになってたまには占い師にお金を惜しみなく捧げるほど偶像崇拝しました。結婚をしてもっと熱心に偶像崇拝をしながら占い師が言うとおり従いましたが続けて生活が苦しくて困苦をなめました。舅と夫の祖母と一緒に暮らしながら経済的にも大変で精神的にも苦しくて涙が乾く時がないほどでした。
ある日には私も知らずに隣のうちに住んでいる執事からもらったチラシを読んでいる自分の姿を見てびっくりしました。
今までいくら誰から福音を伝えられても 伝道の紙をらっても全く関心がなかったからです。幼いごろ熱心に教会へ通った先輩が私にイエス様だけが真の救い主で神様だとイエス様を信じなければ天国に入らないと言ったことが思い出しました。教会に通ってみたい心が出来ましたが積極的に教会に導いてくれる人がいなくてあちこち占い師を探し回りました。
そうするうちにある日、下血をしました。驚いて検査をしたら子宮筋腫だと言われました。手術をしなければならないでしたが肝臓の数値がとても高くて仕方なく退院しました。肝硬変に進行して悪化される過程だと言われました。
私の病気の話を聞いて気の毒がる妹の知り合いの方から神様を信じて神様に祈ってみたら、という話を聞き神様を信じ始めました。そのごろ私もスワンへ引越しして同じ区に住んでいる首区域長に伝道され恵みと真理教会に通うようになりました。
初めは神様の奇跡が望むと病気が治ると聞いて期待感を持って教会に通いました。続けて礼拝を捧げ御言葉を聴き祈りと賛美をしてからイエス様を信じることによって罪が赦され永遠な命を得、神様をよく仕えることが信仰の理由であるを知るようになりました。それで目的が正しい信仰を持つようになりました。平日礼拝と区域礼拝も熱心に参席して真の礼拝を捧げ当会長牧師の神癒の祈りをすることに切ない心で全能なる神様の治療の神様を仰ぎました。
そうするうちに、一番上の兄と三番目の兄が肝臓癌と慢性肝硬変で亡くなりました。私は家族の病力で“神様に私を治療してくださる事も感謝でそうしなくても私の魂を救ってくださった神様に感謝を捧げます。”と祈りました。時によって助けてくださる神様の恵みでクンポ市で新しい家を用意して引越ししました。神様は旦那も救ってくださいました。初めは主日だけ礼拝を捧げた旦那が水曜礼拝も出て当会長牧師の講解説教を通して大きい恵みを受けました。その後から金曜徹夜祈り会にも参席し御言葉を通して体系的に聖書を学び神霊な知識が増える喜びも出来ました。
そして今年 2 月驚いた神様の恵みを体験しました。健康診断を受けましたが肝炎の症状が完全になくなり新しい抗体まで出来たという検査結果が出たからです。そのような結果を信じにくいと言いながら妹達から“再検査を受けて見みたら”と言われ他の二つ病院に行って再び検査を受けましたが結果は同じで肝の状態は正常になったと言われました。
すると妹達も神様が私を助けてくださったと認定しました。ハレルヤ！
暗闇の中からさ迷った私の目を開いてくださいました。暗闇から光で、悪魔の力から神様のところに入って罪が赦され清い聖徒になり天国の企業を得るようにさせてくださった神様の恵みを賛美します。
驚く愛と限りない権能で私の病気を治してくださった神様、 あなたの魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるように区域長として区域を仕えます。水曜 3 部礼拝の聖歌隊で奉仕する恵みを与えてくださった神様に感謝します。
“二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」”（使徒健康録１６：３１）
この御言葉を信じて私のイエス様を信じない兄弟姉妹すべてが救われ清い神様の国の民になり主の中で祝福あるように祈りと伝道しています。
“. 主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。（ルカによる福音書１４：２３）御言葉に従順して人々に熱心に福音を伝えます。 “わたしは、神に近くあることを幸いとし／主なる神に避けどころを置く。わたしは御業をことごとく語り伝えよう。” アーメン　主の御名を賛美しながら神様に栄光を捧げます。

［信仰コラム］

原因と反応と結果

″…イエスが私たちの信頼を見て中風にかかった人におっしゃるには少子は自分の罪を赦免されたから″(マク2:1~5)

天が定めた縁という言葉があります。聖書的に解釈すると神様の定めることになった縁ということです。縁とはお互いの関係を持つようになる縁という意味であり、縁は物事の間にお互いに結ばれる関係です。因縁という二文字の中に’因’は直接的な原因を意味し、‘縁’、間接的な原因を意味します。例えば、穀物の種は直接的な原因であり、その種が芽生えて生長するには影響を及ぼしたものは、間接的な原因です。
すべての被造物や事件は原因と結果とは関係に存在しています。私たち自分の意志や活動とは無関係な原因があれば、自分の意志と活動に関連された原因があります。
人が一生住んでいる間自分の意志と努力とは何の関係がなく直面するようになる状況を運命といいます。自分の意志や行為に関係のないことがあって一生に影響を及ぼすことがあります。.こんな事を考えると運命論者になりかねません。
聖書は神様を歴史と人生の主権者として啓示しました。人類の歴史の進行と結局は神様がお決めたとおりになることです。その大略が聖書にすでに予言されています。しかし、神様が人間に自由と意志を与えました。そしてさまざまな原因に対する人間の選択と行為が重大な結果を招来するようにしました。
原因に関連して私たちが非常に重大にして扱うべきこと二つがあります。その中に一つは自分に影響を及ぼすことになる原因に対する反応です。他の一つは他の事物に対する原因の提供です。原因に対する反応と原因を提供する行為、この二つはその人の一生と永遠な暮らしに重大な結果を及ぼすことにします。
第一に、人が何らかの原因によってもイエス・キリストを信じられるようになれば最高の結果を得たことになります。聖徒たちには、イエスを救世主と信じるようになった理由があるものです。直接的な原因と間接的な原因があるはずです。その原因がどんな人かあり、どんな事件である可能性があります。その中には経済的なものがあるはずです。もしくは体に関係されたものがあるはずです。それなりにキリスト人になった経路や事情があるはずです。何よりも重要なのはキリスト人になったという結果です。
ヨハネ福音書 12 枚に見れば、イエスが死んだナサロを生かした事件による反応が三つに現れました。神様を信じるようになった人がいます。神様を告発した人たちがいます。神様とナサロを殺そうとした人がいます。人が一生を過ごしながらどのような状況に置かれても、どんなことを経験するようになるでも結局、イエス・キリストを信じるようになったら幸せになります。永生を得て、神様の子供となって天国の民になったのだから、これを凌駕するような福はありません。
第二に、何でもその事が信仰生活にプラス要因になったら最善の結果を得たことになります。イエスさまがカボナウム町の一軒に入ったといううわさが広まると、人々が押し寄せて来ました。その時中風の病人を積んできている人がいました。彼らはどうしても患者をイエス様の前に連れて行けないて、変な行動を見せてくれました。屋根に上がって、屋根を取り外し、病人をベッドままつけするようなアイデアを出して実践しました。神様を近くにしようとすることを邪魔になるものが何でもそれによって私たちががっかりしたり、萎縮してはならないです。試験に陥るのではなく、むしろもっと積極的に奉仕して礼拝しなければなりません。ナサロのおかけて多くの人が、イエスを信じるようになりました。
自分の人生を通じて他の人がキリストを迎接するようになって信仰生活をもっと一生懸命に原因を提供をしたら、最上の結果を得たことになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

実利ある信仰生活

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

すべての事には外見や格式と手続きが必要です．しかし　実利が度外視されれば結局は形式が無意味になります．信仰生活は実利がなければなりません．形式だけである信仰生活には救いがないです．賞もないです．誰でも信仰生活をすれば信者と呼ばれます．教会に登録すれば教人だと呼ばれます．しかし信者と呼ばれて教人だと呼ばれるのが救いを得ることを意味しないです．信仰生活をするが実利がなければなりません．実利と言うのはなかみになる内容です．信仰生活の三代要素は信じると礼拝と奉仕です．今日は実利ある信じると礼拝と奉仕に関してよく見ます．

第一、実利ある信仰を持たなければなりません．

ヤコブの手紙 2 章には **“わたしの兄弟たちよ。ある人が自分には信仰があると称していても、もし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか。”(ヤコブの手紙 2:14)**と言った後 **“行うことがない信仰**”に関しても例えました．先に，“行いがない信仰”は実利がないということを説明するのを **“ある兄弟または姉妹が裸でいて、その日の食物にもこと欠いている場合、あなたがたのうち、だれかが、「安らかに行きなさい。暖まって、食べ飽きなさい」と言うだけで、そのからだに必要なものを何ひとつ与えなかったとしたら、なんの役に立つか。”(ヤコブの手紙 2:15,16)**と言いました．お話だけ言って行うことがない信仰は実利ない信仰です．行うことがない信仰”は知的な同意に過ぎないということを説明するのを **あなたは、神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。”(ヤコブの手紙 2:19)**と言いました．

イエス様が会堂に入ったらちょうど会堂にきたない鬼に取り付かれた人がいて大声を出すのを **“ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です。”(マルコによる福音書 1:24)**と言いました．鬼たちも神様が誰かイエス様が誰かよく分かっています．しかし神様を恐れるだけで仕えないです．神様の思った通りに行わないで神様の存在に対する信仰のみを持っていることは鬼の信仰です．実利ない信仰です．聖書を学んで分かることはするが聖書どおり信じないで間違って言って状況によってほかに言う人の信仰は鬼の信仰や違うところないです．

行いがある信仰をもっと明らかに説明しようとアブラハムを例にあげました．**“わたしたちの父祖アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげた時、行いによって義とされたのではなかったか。 あなたが知っているとおり、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ、”(ヤコブの手紙 2:21,22)**と言いました．アブラハムは独り子を番祭で差し上げなさいという神様の命令をそのまま実践に移してイサクを縛り上げて刀を出し上げましだ．神様がその瞬間アブラハムの行動を止めました．アブラハムのこのような行うことの土台には神様の口約束に対する信仰がありました．あなたの子孫が空の星と同じく栄えるはずでその子孫はイサクによるはずだという口約束に対する信仰です．その信仰が神様の命令に従順する行うことで証明されました．

使徒たちは身近に脅威を受けながらも大胆に言うのを **“この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。”(使徒行伝 4:12)**と言いました．このように私たちは神様がくださった言葉を信じてその信仰を守るために妥協がなしに行わなければなりません．これが実利ある信仰を持った聖徒の姿です．

第二、実利ある礼拝を差し上げなければなりません．

礼拝は決まった形式があります．アブラハムは祭壇を積んでお供えを差し上げてエホバの名前を呼びました．イサクとヤゴブもそんな形式に礼拝しました．出エジプトしたイスラエル子孫たちは神様が市内山の上でモセを通じて知らせてくださった祭祀法と各種の節期を守る法式どおり礼拝しました．五旬節の聖霊降臨で教会が設立されることで旧約の祭祀法ではない礼拝の格式と手続きができたしその礼拝形式が整えられて来ました．多くの人が一緒に集まって礼拝する時は場所と道具と各種手順があります．このようなことは皆礼拝の形式に属します．礼拝の形式は決しておろそかに思うのではないです．しかし礼拝の本質が無視された形式は意味がないです．礼拝の対象と礼拝する人の霊的な状態が礼拝の主要本質です．

ヨハネによる福音書 4 章に礼拝の本質に対してイエスキリストが親しくおっしゃった言葉があります．**“しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまことをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもって礼拝すべきである」。”(ヨハネによる福音書 4:23,24)**．礼拝する人は神様が霊であるのが分からなければなりません．神様はすべての物質を作った創造主です．だから被造物の中何をそして人の手で作ったどんな形象を仕えることは神様を不名誉にさせる仕事です．“神霊で礼拝”するということは礼拝する者が“霊で礼拝”することを言います．イエスキリストのあがないの恵みによって誰でもイエスキリストを信じれば聖霊で生まれかわるようになります．

だから霊で礼拝しなければならないということは生まれかわった人が聖霊様の来臨によって礼拝することを言います．“まことに礼拝”するという言葉は “真で礼拝”，“真理で差し上げる礼拝”を意味します．真理と言うのはイエスキリストです．イエス様は “私がすなわち道であり真理で生命だから”とおっしゃいました．イエスキリストを離れては救いの恵みも，救いの真理もないです．イエスキリストの名前で差し上げる礼拝，イエスキリスト中で差し上げる礼拝がすなわちまことに差し上げる礼拝です．

真の礼拝と言うのは生まれかわった霊を持った聖徒が聖霊様の来臨によって真理であるイエスキリストにあって父の神様を敬排するのです．このような礼拝が実利のある礼拝です．

第三、実利ある奉仕をしなければなりません．

自分の理解の見なくて身と心をつくして働くことを奉仕と言います．奉事する人には奉仕の動機と目的が重要です．他人のために慈善，救済，献身しながらそれを自分のように行わない人をしかるための方便にするとか自分が行った事を誇示して自分の名前を広く知らせて誇ろうと思ったら神様の前で実利ない奉仕になるでしょう．私たちのすべての奉仕は “神様の愛と恵み”という動機と “神様の光栄と主を嬉しくするための” 目的によることでなければなりません．

イエス様が村ベタニヤにあるラザロの家を訪問しました．ベタニヤはエルサレムから約 3 キロメートル離れた村でラザロはそのいもうとマリアとマルター緒に暮していました．彼らは喜んでイエス様のために宴を施しました．イエス様が弟子たちにおっしゃっていらっしゃる時“その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。イエスは言われた、「この女のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだから。貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。”“全天下にどこでも福音が伝える所にはこの女の行ったことも言って私を記念しよう．”

一方イスカリオテのユダにそんな行動をするようになった動機と目的が**ヨハネによる福音書 12 章 6 節**に記録されました．**“彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。”** 私たちが神様を礼拝するとか福音を伝えるために使う費用に虚費という言葉を使うことは適当ではないです．私たちの奉仕は神様に対する感謝と愛で出発して主神様に光栄を帰して主を嬉しくすることに終わらなければなりません．そうではなければ実利のない奉仕になってしまいます．霊とまことが排除された礼拝，神様が中心にならない奉仕は本質が喪失されたのです．

きらめくとすべて宝石ではないです．宝石鑑定人が鑑定して見てにせ物であることが確認されればそれは宝石に取り扱いされないです．模様と形式がやくたいもないことではないです．しかし実利がなければなりません．外見や格式と手続きは立派でも本質が変質されて実利のない信仰生活は結局に無意味なのがなってしまいます．救いもなくて賞もないです．聖徒の皆さんは実利ある信仰，実利ある礼拝，実利ある奉仕で成り立った信仰生活をなさってください．